



千家尊福自筆の校歌と、校庭の石碑

わが校 自慢 学校の広場

～大山小学校～

一、みはしの桜たちばなは
我が学舎の旗しるし
心は桜の美わしく
身はたちばなの
香にならえ

二、里の名におう大山の
高きのにのぼる道しるべ
文もたがえず一筋に
教えのままに
いそしまん

桜 たちばな

大正天皇の御大典記念として、大正4年11月10日当校の校旗と校歌が制定された。(学校沿革誌による) どのような経路で依頼したものがつまびらかではない。その後当時の校長が県知事に認可申請を提出し、受理した県は文部省に提出、文部省は大正8年2月17日歌詞の中の「ふみもたゆまず」を「ふみもたがえず」に訂正の上、認可したとのことである。

校長室には作詞者自筆による美しい書体で書かれた校歌が、額に納められている。もちろんこれには、「ふみもたゆまず」の原文で書かれてあった。作詞の千家尊福については、出雲大社宮司を務めた名門で男爵である。東京府知事、第七代埼玉県知事、司法大臣を歴任した人物である。

現在大山小学校は、114名の小規模校であるが、全校で歌う校歌の歌声には、詞からくる裏とした気高さを感じる。何故ならば、「さくら橋」は左近の桜、右近の橋をさし、時代は平安時代までさかのぼる。ここは桜、身は橋とそれぞれの美わしさ香り高さが、今もなお大山小に漂っているからである。

大正後半から昭和20年代ころには、児童数525名の朗朗たる歌声がこの大山に響いたであろう。ところで、本校にはかの有名な渋澤栄一一家(深谷市)にある橋の木の種類から育った橋がある。校歌をめぐる橋の秘話である。



上段：イルカ
2・3段目：マグロ
下段左：カジキマグロ
下段右：カツオ



ふるさと 白岡紀行



縦横に走る柵列と堀立柱建物跡が見られます。

いりごうち 入耕地遺跡 - まぼろしの宴 -

入耕地遺跡は、旧石器時代から中世にかけて連続と人びとの歴史が刻まれた、白岡屈指の遺跡です。平成3年の発掘調査によって、室町時代から戦国時代にかけての武士の館跡が姿を現しました。

この調査で、何種類かの魚骨が出土し、分析の結果クロマグロ、カジキマグロ、イルカ、カツオの骨であることが明らかとなりました。しかもかなりの大物だと言うのです。館の主は内陸の白岡の地にありながら、最高級の海の幸で賓客をもてなしたようです。総領の婚礼の宴でしょうか。はたまた勝利の祝宴か、宴の様子や招かれた客など、想像は無限に広がります。続きは皆さんにお任せしましょう。



ユリノキの花